

世界史 B

1 次の文章を読み、下の設問に答えよ。

4世紀後半、ローマ帝国の北方一帯で暮らしていたゲルマン人は西進してきたフン人^(a)におされて帝国内へと移動を始め、領内にさまざまなゲルマン人の王国をたてた。一方、ローマ帝国の東西分裂後、西のローマ皇帝の威勢は衰退し、476年、傭兵隊長のゲルマン人（ 1 ）は西の皇帝を退位させ、西ローマ帝国は滅亡した。

ゲルマン人諸王国の多くは短命であったが、ガリアに進出したフランク人は次第に勢力を伸ばし、メロヴィング家の（ 2 ）はフランク人を統一して王国を強固なものにした。彼は、いち早くキリスト教のアタナシウス派に改宗し、ローマ=カトリック教会^(b)の支持を得た。

8世紀になるとメロヴィング家の権力は衰え、実権は宮宰に移った。この頃、イベリア半島からイスラームのウマイヤ朝がガリアに侵入してきたが、宮宰（ 3 ）は732年にトゥール・ポワティエ間の戦いでイスラーム軍を撃退した。そして、その子ピピン3世（小ピピン）^(c)がメロヴィング家の王を廃し、ローマ教皇の承認のもとに王位につき、（ 4 ）朝が始まった。

ピピン3世の子カールは領土の統合と征服につとめ、西ヨーロッパの主要部分を統一した^(d)。800年、彼はローマ教皇の（ 5 ）からローマ皇帝の帝冠を授けられた。

しかし、カールの死後、王国の相続をめぐる争いが起き、843年の（ 6 ）条約と870年のメルセン条約により、三つの王国に分裂した。このうち、東フランク（ドイツ）では（ 4 ）家の断絶後、諸侯の選挙で国王が選ばれるようになった。その中の一人、ザクセン家の（ 7 ）はマジャール人などの侵入を退け、962年に教皇から帝冠を授けられた^(e)。西フランク（フランス）でも（ 4 ）家の断絶後、（ 8 ）が王位についたが、王権はパリ周辺に限られた。イタリアでは（ 4 ）家が断絶すると、諸侯や都市国家が分立し、マジャール人やイスラーム勢力^(f)が侵入して混乱を極めた。

問1 文中の空欄（ 1 ）～（ 8 ）にあてはまる人名または語句を答えよ。

問2 下線部(a)に関連して、5世紀前半にパンノニアを中心に大勢力を築くが、451年のカタラウヌムの戦いで西ローマ・ゲルマンの連合軍に敗れたフン人の王は誰か、答えよ。

問3 下線部(b)に関連して、世俗と離れて労働と祈りの厳格な規律をもって修養生活を送るためにモンテ=カッシーノに修道院を作った人物は誰か、答えよ。

問4 下線部(c)に関連して、彼が北イタリアのランゴバルド王国を攻めて獲得し、ローマ教皇に寄進して教皇領となった地方を何と呼ぶか、答えよ。

問5 下線部(d)に関連して、この広大な領土を統治するため、カールが設置した制度のうち、(ア)在地の豪族などを任命して現地の司法や行政を委ねた官職と(イ)その監督のために派遣された役人の名称を、それぞれ答えよ。

問6 下線部(e)に関連して、のちにこの皇帝の国は何と呼ばれるようになったか、答えよ。

問7 下線部(f)に関連して、彼らが支配下に置いたある地域は11世紀以降に侵入してきたノルマン人が奪い、国をたてた。この国の名称を答えよ。

次の文章を読み、下の設問に答えよ。

15世紀のヨーロッパでは、オスマン帝国の地中海進出、東方の富へのあこがれや当時のヨーロッパの食生活に欠かせない香辛料の直接入手の期待などから、^(a)新たな海外進出への試みが本格化した。

ポルトガルは、「航海王子」エンリケやバルトロメウ=ディアスらがアフリカ西岸航路の開拓を進め、1498年にはヴァスコ=ダ=ガマがアフリカ南端の（ 1 ）をまわって、インド西岸のカリカットにたどりついた。^(b)その後、インド西岸の港市ゴアを占領して拠点としたポルトガルは、さらにマラッカを占領し、1557年には中国の（ 2 ）に居住権を得た。

スペインは、1492年、イサベル女王の後援のもと、ジェノバ出身のコロンブスが地球球体説を信じて大西洋を横断し、（ 3 ）島に到達した。彼はその後3回の航海を重ね、カリブ海諸島や中南米沿岸を探検した。彼はこれらの地を「インド」の一部と信じていたが、その後アメリゴ=ヴェスプッチの探検によってこれらの地がヨーロッパ人にとって未知の大陸であることがわかり、彼の名にちなんでアメリカと名づけられた。^(c)また、1519年にスペインを出発したマゼランは、南アメリカ南端を經由して太平洋を横断し、1521年に（ 4 ）諸島に到達した。彼自身は現地人との戦いによりここで戦死したが、部下はインド洋から（ 1 ）をまわって1522年にスペインに帰還した。ここに最初の世界周航が達成された。

その後スペインは、アメリカ大陸へ本格的に進出した。1521年コルテスはメキシコの（ 5 ）王国を滅ぼし、1533年にはピサロがペルーの（ 6 ）帝国を征服した。これらの新領土にはエンコミエンダ制が導入され、先住民は大農園や鉱山で酷使された。ヨーロッパからもたらされた伝染病もあいまって、先住民の人口は激減し、代わりにアフリカから大量の奴隷が労働力として導入されることになった。^(d)

問1 文中の空欄（ 1 ）～（ 6 ）にあてはまる語句を答えよ。

問2 下線部(a)に関連して、13世紀後半にユーラシア大陸を旅してその見聞を『世界の記述（東方見聞録）』としてまとめ、ヨーロッパ人の東方への関心を高めるきっかけを作ったヴェネツィア出身の商人は誰か、答えよ。

問3 下線部(b)に関連して、この頃デカン高原南部にあったヒンドゥー教の国で、香辛料や綿布の交易で栄えた国はどこか、次のア～エから1つ選び、記号で答えよ。

- ア. ヴィジャヤナガル王国 イ. デリー=スルタン朝 ウ. マラーター王国
エ. ムガル帝国

問4 下線部(c)に関連して、北アメリカ大陸では17世紀にオランダ、イギリス、フランスが先住民を追い払ってそれぞれの植民地を形成したが、このうち、のちにイギリスに奪われてニューヨークと改称されたオランダ植民地の中心都市はどこか、答えよ。

問5 下線部(d)に関連して、18世紀には主にイギリス人・フランス人などの商人が武器や雑貨をアフリカに送り、そこで奴隷を買いつけてアメリカの大農園に転売し、砂糖・綿花・煙草などをヨーロッパへ運ぶ貿易を展開することになったが、このことを何とというか、答えよ。

次の文章を読み、文中の空欄（ 1 ）～（ 10 ）にあてはまる人名または語句を答えよ。

近代ヨーロッパでは、自然や社会に対する認識が深まるとともに、学問の方法論や認識の方法にも関心が向けられた。

イギリスのフランシス=ベーコンは、観察と経験によって自然現象を解明することを説き、多数の事例から一般的な命題を導く（ 1 ）法を確立した（イギリス経験論）。これに対して、フランスのデカルトは、一般的な命題から特殊な命題を導きだす方法を確立し、大陸合理論の流れをつくった。その後、オランダの（ 2 ）が、物質と精神を神の属性と考える汎神論を説いたり、ドイツのライプニッツが単子（モノド）論を説いたりした。

18世紀には、人間の理性の光に照らして事物を検討し、迷信や偏見を打破すべきことを主張する啓蒙思想があらわれ、教会や絶対王政の批判を行った。これは、特にフランスで展開された。（ 3 ）は『法の精神』を著し、三権分立を説いた。ヴォルテールは、著書『（ 4 ）』（1733～34年）でフランスの後進性を批判し、（ 5 ）は著書『人間不平等起源論』や『社会契約論』で、自由平等と人民主義を説いた。

建築では、ルイ14世が建造した宮殿は、豪壮華麗なバロック様式が用いられた。これに対して、18世紀半ば、フリードリヒ2世（大王）がポツダムに建造した（ 6 ）宮殿は、繊細で優美なロココ様式が用いられた。

文学では、17世紀のフランスを中心に形式美の文学が展開し（古典主義）、（ 7 ）が『アンドロマック』『フェードル』、コルネイユが『ル=シッド』などの悲劇を著し、モリエールが『人間嫌い』『守銭奴』などの喜劇を著した。また、フランスでは、1635年にリシュリューによって（ 8 ）という学術団体が創設され、国語（フランス語）の統一と洗練につとめた。一方、イギリスでは、ミルトンの『失樂園』や、バンヤンの1678年（1部）と1684年（2部）に刊行された『（ 9 ）』などのピューリタン文学がうまれた。

美術は、フランドル派の画家でバロック絵画の巨匠（ 10 ）とその弟子ファン=ダイクの肖像画にみられるように、宮廷の装飾として発展した。また、オランダのレンブラントは、市民とその生活を描き、「夜警」などの写実性と内面性に富む作品を残した。

4

次の文章を読み、下の設問に答えよ。

イギリスは、1870年代以降、世界的な不況や他の工業国との競合に直面すると、保守党の（ 1 ）首相のもとで、スエズ運河会社の株を買収し運河の経営権を握り（1875年）、さらにロシア=トルコ戦争（1877-78年）の戦後処理にも干渉し、インドへの道を確保した。そして、1895年に植民相となったジョゼフ=チェンバレンのもとで、植民地との連携強化を図り、その一部を自治領とした。国内では、1914年にアイルランド自治法が成立した。しかし、イギリス人の多い北アイルランドはこれに反対して、アイルランド独立を主張する（ 2 ）党と対立したため、政府は第1次世界大戦の勃発を理由にこの自治法の実施を延期した。（ 2 ）党などは反発して、一部の独立強硬派は1916年に（ 3 ）蜂起をおこしたが鎮圧された。

フランスは、工業力ではドイツやアメリカに及ばなかったが、豊かな中産階層に支えられた銀行の資本力を武器に帝国主義政策を追求した。1870年代からはじまる（ 4 ）体制下でフランスは国際的に孤立していたが、1904年に（ 5 ）を結んでドイツに対抗した。国内では、1887年から1889年にかけての（ 6 ）事件をはじめとして、共和政攻撃の動きがおこったが、政府はこの危機を切り抜けた。1905年には、国家の宗教的中立を定めた（ 7 ）法が公布された。

ドイツでは、1888年にヴィルヘルム2世が即位した。彼は、1890年に（ 4 ）を^{ひめん}罷免すると、「（ 8 ）」の名のもとに強引な帝国主義政策を追求し、海軍の大拡張をはかり、イギリスをおびやかした。市民層の間にも国外のドイツ人を統合して大帝国建設を目指す（ 9 ）主義運動が広がった。

アメリカでは、共和党のマッキンリー大統領が（ 10 ）の独立運動に乗じて、1898年にアメリカ=スペイン戦争を起こし勝利した。1913年に大統領になった民主党の（ 11 ）は、「新しい自由」を掲げ、大企業を規制する反トラスト法の強化や関税の引き下げなどを実施した。対外的には、アメリカ民主主義の道義的優位を説く「宣教師外交」を推進したが、ディアス政権打倒を目指して内戦状態にあった（ 12 ）に軍事介入したり、1914年にパナマ運河が完成するとその管理権を握ったりするなどして、中米やカリブ海地域での覇権を確立した。

問1 文中の空欄（ 1 ）～（ 12 ）にあてはまる人名または語句を答えよ。

問2 下線部(a)に関連して、1877年にインド帝国が成立した。皇帝に即位した人物は誰か、答えよ。

問3 下線部(b)に関連して、彼の植民相の在任期間前から自治領になっていた国として適切なものを、次のア～エから1つ選び、記号で答えよ。

ア. ニュージーランド イ. 南アフリカ連邦 ウ. カナダ連邦 エ. オーストラリア連邦

問4 下線部(c)に関連して、アメリカの保護国（事実上の保護国も含む）として誤っているものを、次のア～エから1つ選び、記号で答えよ。

ア. ドミニカ共和国 イ. ニカラグア ウ. ハイチ エ. ジャマイカ